

崎康、石田、今永ら進境著しい若手に続く
新星は現れるか。チームの未来を担う精鋭
たちの横顔を紹介する。

クライマックスシリーズ(CS)に初進
出した昨季からさらなる飛躍を期す横浜D
eNAに、10人のルーキーが加わった。山

新人合同自主トレーニングでアピ
ールを続ける浜口
＝横須賀市長浦町のベ이스ターズ
総合グラウンド(花輪 久写真)



浜口 遥大 Haruhiro Hamaguchi

ドラフト1位／投手

はまぐち・はるひろ 投手。佐賀県基山町出身。佐賀・三養基高―神奈川大。高校時代に甲子園出場経験はないが、大学1年秋からエースを務め、春秋合わせて3度のリーグ優勝に貢献。リーグ通算20勝16敗。2年春には全日本大学選手権でチームを過去最高の進優勝に導いた。173センチ、80キロ。左投げ左打ち。背番号26。21歳。

という当時は振り返り、「先輩の声がなければ野球をやめていた」と笑うが、ここから自分の力で道を切り拓いていく。

同県立三養基高校で投手を任され、腕一本で強豪校に立ち向かう。「やっぱり野球は楽しい」。再認識した左腕は冬場の走り込みで下半身を鍛え、球速は入学時から25キロもアップした。

3年夏の佐賀大会は2完封を含む全3試合で完投。九州の各校から誘いを受けたが「より高いレベル」を求めて神奈川に針路を向けた。

ピッチングは粗削り。神奈川大学リーグの1試合平均の四死球は5個以上だ。ただ、「小さくまとまりたくない」との信念の下、神大の古川祐一監督(48)と歩んだ過程は間違っていないと確信する。

直球は最速151キロ。ストリートと並ぶ武器のチェンジアップは実戦を通じて磨いてきた。

「プロで戦うにはまだ足りないぞ」。入学間もないころから指揮官の言葉に背中を押され、1年春からリーグ戦のマウンドに立つこと51試合。計359回1/3を投げた。昨年の春秋だけで19試合に登板し、134回1/3とプロにも匹敵するイニング数だった。1試合130球程度を投げることがさらに、完投した翌日にロングリリーフを任される時もあった。173センチながら80

腕振り信頼勝ち取る

「おまえに任せた」。普段の柔らかな表情はいつも、このひと言で引き締まったという。神奈川大学リーグで1年から投げ続けてきた屈指の左腕、浜口遥大(神奈川大)は周囲に信頼されればされるほど力を培い、発揮してきた。

とりわけ優勝を懸けた昨年10月11日、神奈川工大との3回戦が忘れられない。中1日で登板し、3失点完投。リーグ通算20勝を飾るとともに、仲間がつくった輪の中心で歓喜に酔いしれた。

不調であろうと、劣勢であろうと関係ない。サウスポーはこの大一番でも、ベンチ、チームメートの信頼に応えたい一心で腕を振っていた。

中学時代は「平凡」。志願した投手は中学3年春に「クビ」になった。ポジションは右翼で打撃は良くて6番。進学先の高校でも野球を続けるか逡巡している時に「怖かった」という先輩から声が掛かった。

「部員が少ないから入れ」。恐怖心から誘いを拒めなかった。生まれば、J-1鳥栖が本拠地

★
ルーキー
未来担う精鋭10選手

—1—

〇〇〇〇

(清水 嘉寛)